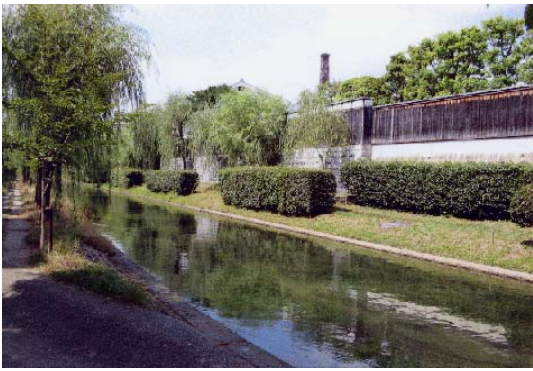


観光社会資本の事例

テーマ	水運の歴史を奏でる伏見地区
【施設の状況写真】  三栖閘門 京都と大阪を結ぶ淀川舟運の要衝であった伏見地区に昭和初期に設けられた。現在は、その歴史と文化を語り継ぐ遺産として整備されている。	宇治川派流 観光用として三十石船や十石舟が運行されるとともに周辺の伏見みなと公園を訪れる人々や地元住民の散策路として、植栽を設けるなど歴史的な伏見の町並みの景観に配慮した整備が行われている。 
【施設の利用写真】  三栖閘門資料館 かつての閘門操作室は、新たに資料館として復元された。	十石船 遺産として整備された三栖閘門と宇治川派流には、観光船が地元の人々により運航されている。 
【観光資源としての利用状況】 伏見は桃山時代に秀吉によってその都市基盤が整備され、江戸時代以降は京都と大阪を結ぶ中継地として栄えた港町である。 明治以降の淀川舟運は、陸上交通の発達によって徐々に衰退し、伏見港も昭和38年にはその幕を閉じた。 近年、遺産としての三栖閘門の整備、資料館の開設、歴史ある周辺景観と調和した宇治川派流の河川整備に加え、そこを行き交う十石船の運行が地元の人々によった復活されたことにより、多くの人々が訪れるようになり、現在では観光地としてその賑わいを取り戻している。	

テーマ	水運の歴史を奏でる伏見地区
-----	---------------

【社会資本の基礎データ】			
○ 名称	三栖閘門、三栖閘門資料館	○ 名称	宇治川派流
○ 所在地	京都市伏見区	○ 所在地	京都市伏見区
○ 事業名	直轄河川維持修繕	○ 事業名	河川環境整備事業補助
○ 事業主体	国土交通省	○ 事業主体	京都府
○ 事業期間	平成14年～平成15年	○ 事業期間	昭和61年～平成2年

【社会資本の役割・効果】	
三栖閘門 1918年(大正7年)に始まった淀川改修増補工事の築堤により、伏見港と宇治川の間は船の通航ができなくなった。このため、通航ができるよう1929年(昭和4年)に閘門が建設された。現在では当時の閘門の機能は失われたが、その扉体は宇治川堤防の一部としての役割を果たし、淀川舟運の歴史を語り継ぐ遺産として保存・活用されている。	
宇治川派流 宇治川派流は、豊臣秀吉の伏見城築城に併せ、宇治川と結ぶ流路として開削され、伏見港を拠点とした舟運により、京都・大阪を結ぶ交通の要衝として栄えた。昭和初期には、宇治川から締め切られ、現在では三十石船や十石船が運行されるなど、伏見みなと公園などとともに観光拠点として、人々にうるおいややすらぎを与えている。	

【位置図】	
【関連ホームページ】 三栖閘門資料館 http://www.misu-museum.jp	